

防災通信 No.24

この通信はみなさんの防災意識を高めていただき、少しでも被害を小さく出来ることを目的に作成しています。ご意見等ありましたらお寄せください。

(グリーンテラス本郷台自治会)

備蓄水 (飲料用)

大規模な災害に備えて、家庭備蓄の重要性が高まっています。特に水は不可欠なものとして、1人1日3リットルを目途に、最低3日分から1週間分の備蓄が望ましいといわれています。普段から少し多めに買って置き、使った分だけ新しく買い足して、使いながら備蓄を心がけることはもちろんですが、賞味期限が切れたからと慌てて処分しないで、いざというときに役立ててください。

【ペットボトルの水の賞味期限】

ペットボトルの水に表示されている賞味期限は、飲めなくなる期限ではありません。

では、なぜ十分飲めるのに賞味期限表示がされているのでしょうか。

そもそも、水が腐ることはあるのでしょうか。基本的に、水そのものは無機物なので、腐ることはないといわれています。ペットボトルの水の場合、未開封であれば腐ることはありません。

メーカーによれば、「ペットボトルの水は、その多くが濾過（ろか）や加熱の工程を経ることにより、雑菌を取り除いています。雑菌が入り込んだ水は品質が劣化しますが、雑菌のない水は外部から異物が侵入しない限り腐敗しない」そうです。

同様のことは、2018年7月3日付けの産経新聞の記事で「賞味期限を過ぎたペットボトルの水は飲めるのか、飲めないのか？」にも書かれています。

ペットボトルの水が「何年たっても腐らない」なら、いっそ賞味期限を「無期限」にしてはどうか、という質問に対して、日本ミネラルウォーター協会の渡辺健介事務局長が、「いや、水の賞味期限は、表示された容量が確保できる期限です」と答えています。

食品は、食品事業者が科学的・合理的な根拠に基づいて賞味期限を設定している一方、計量法の規定に基づいて内容量を表示する決まりもあります。ペットボトルの容器は、通気性があるため水が少しずつ蒸発していく、つまり時間の経過とともに量が減るので、表示と実際の容量が許容の誤差を超えた商品を「販売する」と計量法違反になるのです。ペットボトルの水の賞味期限は、表示と実際の容量の誤差が許容範囲内にある期間、すなわち計量法違反にならない限度を示しているのです。



食品を製造・販売するためには、食品衛生法や食品表示法など、様々な法律を厳守する必要があり、それら法律の一つに「計量法」があるのです。

ペットボトルではなく、ガラス瓶に入れて製造・販売されている飲料水は、品質の劣化が極めて少なく、「賞味期限表示が省略できる」と国が決めているほどです。

※「飲料水及び清涼飲料水、ただしガラス瓶入りのもの（紙栓をつけたものを除く）は省略できる」
—消費者庁の加工食品の表示に関するQ&A、Q5より

もう一つの問題点にペットボトルは、外部の臭いが素材を通して水に移るといふ事があります。臭いによって品質劣化と判断してしまうこともありますね。

備蓄用の長期保存水については、通常ミネラルウォーターのペットボトルより厚いものが使われ、気体透過性が低くなっています。そのため賞味期限が長く設定できるのです。

また、長期保存水のペットボトルを入れる段ボール箱は厚い物が使用され、箱の取っ手の切り込みを作らないなど、異臭などの原因となる外気が入り込むのを防ぐための工夫がされています。

ペットボトル入りの水は、直射日光や高温多湿を避けるなど、保管がきちんとしていることが、飲用するための前提条件です。きちんと保管されていなかったために、ペットボトル入りの水で品質劣化が起きる可能性はゼロではないでしょう。でも、その場合でも、加熱処理・浄水処理をして飲むことは可能ではないでしょうか。

【備蓄水保管のポイント】

◎直射日光を避けて保管

備蓄水を保管する際は、品質を維持するために直射日光が当たる場所や高温多湿の場所は避けましょう。

◎保管場所を分散させる

災害時には、建物や家具の倒壊により、保管した備蓄品を取り出せなくなる恐れがあります。そのような状況でも備蓄品を取り出せるように、複数の場所に分散備蓄するのがおすすめです。

◎賞味期限を確認する

賞味期限が切れても大丈夫としてきましたが、最悪の場合に対応したことです。安心して飲むためには賞味期限を確認しましょう。

いったん開封した水は早めに飲みましょう。500ミリリットル以下のペットボトルはその日のうちに、1～2リットルのペットボトルは2～3日以内に使い切ってください。また、飲用するときはボトルに直接口をつけないようにコップなどを用いましょう。



備蓄保存水には、5年～50年の物まで多彩にあります。各ご家庭での考え方をもとに購入を考えてみてはいかがでしょうか
※50年保存水はアルミ缶です。

なお、備蓄水が不足した場合、通常は飲まない水を携帯浄水器等を使用し飲料水を確保するという方法もあります。
内容は、別の回にご紹介します。

